

行政

市川南に地裁支部を誘致できないか  
実現目指し近隣市等と連携・協力

地方裁判所

戸村節子議員(公明党)

平成23年12月議会で、千葉地方裁判所の支部設置について質問した。その後、関係団体と情報交換等の連携を図ってきたようだが、市川簡裁の地裁支部への昇格が実現すれば、現在在地の建て替えには限界がある。そこで、市川南の仮設庁舎建設地へ地裁支部を誘致することはできないか。

答 市川南の仮設庁舎建設地は32年5月頃まで利用する予定である。その後の利用については、駅に近く、利便性も高いことから、地裁支部設置の実現を目指し、地権者の協力を求めると共に、各関係団体とも連携する他、船橋市、浦安市にも協力を呼びかけていく。



市川簡易裁判所・家庭裁判所(市川市鬼高)

行政

行財政改革

建物更新費用の捻出方法は  
質と量の改革に取り組み

宮本均議員(公明党)

市は、平成26年度に策定を予定している公共施設白書等に基づき、保有資産の総合的なマネジメントを始めることである。将来の建物更新費用を捻出するためには、耐用年数に関する工学的な検討と、資産の必要度や効率性に関する検討を要すると思うが、今後

国民健康保険制度

制度存続のため皆で儉約の努力を  
痛み分かち合う抜本的改革が必要

松井努議員(緑風会)

国民皆保険を支える国民健康保険は良い制度だが、財政は厳しく、制度の存続について市民全体で考えるべきと思う。医療費の無駄を省く等、皆で儉約して制度を守るという意識で努力していく必要があると考え

答 市は、工学的な検討と効率性の検討を両輪として公共施設の見直しに取り組み、長寿命化や統廃合の方針を保全計画にまとめる等計画的修繕や需要に応じた施設配置を目指す考えである。今後、公共施設のマネジメントを行財政改革の柱として進めていく。

答 本市の国民健康保険事業においては、給付の増に収入が追いつかず、収支の均衡を図るため、一般会計から法定外繰入金を出している。今後もこうした状況が見込まれることから、医療費適正化の一つとしてシエネリック医薬品の使用促進を図るなど、国民健康保険財政の健全化に向けた取り組みが必要と考えている。

仮庁舎の利便性

来庁者に配慮した駐車場等の考えは  
民間駐車場や敷地内での確保を検討

堀越優議員(公明党)

庁舎建て替えのため仮庁舎への移転が進んでいるが、ことも部の執務場所は子ども連れの来庁を考慮し、民間

来庁を想定しているか。答 子ども部がある仮庁舎に来庁の際は、本庁舎の駐車場等に加え、八幡市民談話室の駐車場を利用できるが、来庁者の利便性に配慮し周辺の駐車場等の活用を検討していく。市川南仮庁舎は、徒歩での利用が、車での来庁も可能となるよう、駐車場の確保を計画している。

中核市への移行

指定要件満たしており移行すべき  
適切なタイミングで移行

鈴木啓一議員(ポランテア)

中核市は、都市計画や保健衛生等、様々な権限を持つ他、包括外部監査が義務付けられているため、市民

市に移行すべきである。市の考えはどうか。答 中核市への移行は、本市は指定要件を満たしており、市民サービス向上の観点から考える必要がある。移行による効果や財政への影響等を見極めた上で、適切なタイミングで移行をすることが本市にも求められていると考えている。

健康

重症傷病者の救助

ラピッドカー 課題と活用の考えは  
時間短縮に努め範囲拡大も検討

松永修巳議員(緑風会)

順天堂大学浦安病院は、重症傷病者の発生時、消防の要請で医師と看護師が現場へ急行するラピッドレス

答 市も、ラピッドレスボンスカーの運用は有効と考えている。救命率の向上等のためには速やかな患者の治療開始が課題であり、関係者と継続的に検討・協議し、時間短縮に努めたい。出動地域の拡大については現在検討しており、良い運用になるよう、様々な角度から提案をしていく。

健康マイレージ

継続してもらおう工夫を  
優待や割引を検討

浅野さち議員(公明党)

市が平成26年度から行う健康マイレージ制度は、市民一人ひとりが健康づくりの意識や関心を持ち、毎日

答 市は、本制度を市民が継続して健康づくりに取り組むことのできる仕組みとしたいと考えている。今後、ポイント達成者が継続状況に応じて優待や割引を受けられることのできる仕組みについて、関係部署と連携し、市内の企業や生産者の協賛を得て取り入れていきたい。

国民健康保険

保険税引き上げあってはならぬ  
加入者の能力に応じ負担してもらおう

高坂進議員(日本共産党)

国民健康保険制度は国民相互扶助ではなく、拠出型

相互扶助の考え方を取り入れた、社会保険制度で国民に健やかで安心できる生活を保障する仕組みである。市としては、自治体等が費用全般を負担するものではなく、加入者にもその能力に応じて負担してもらおうものと考えており、今後、制度が抱える課題には適時適切に取り組んでいく。

自死遺族への支援

自死遺族の「つどい」開催は  
個別で対応 近隣開催地を紹介

増田好秀議員(結いの党)

自死遺族の悩みは大きく、自死という理由で周囲に相談できず孤立しやすい状況

かち合える場所の提供は、大変重要である。本市への自死遺族支援相談件数は、依然として少ない状況から個々で対応している。「つどい」は、全国でNPO法人等が実施しているため、市に問い合わせがあれば、千葉市で開催している自死遺族支援「わかちあひの会ひだまり」等を紹介している。